

茨城県における生物多様性地域戦略の策定に関する要望書

茨城県生物多様性地域戦略策定委員会

委員長 山根爽一 様

2014年2月6日

認定NPO法人アサザ基金

代表理事 飯島 博

現在、茨城県が策定を進めている生物多様性地域戦略について、以下の要望をします。

まず、同戦略の策定が僅か一年間で行われること、県民との意見交換も一回しか設けられていないことは全く不十分であり、県内の生物多様性のきちんとした現状認識や県民の意見の反映も期待できません。

このような状況は、昨日(2月5日)霞ヶ浦環境科学センターで開催された委員会との意見交換でも明らかになりました。例えば、委員長が講演の中で10年間減少が続き過去最低レベルまで激減して絶滅の危機にある霞ヶ浦のアサザを着実に増えているなどと説明したり、副委員長が霞ヶ浦の生態系全体に大きな影響を及ぼしている水位操作や逆水門閉鎖といった課題を全く理解していないことや、それらの事業の公益性をただ主張するだけで生物多様性の保全に必要な対策を考えようとする姿勢が欠如していることなど、この委員会の体質自体にも疑問を持たざるを得ません。

また、私が会場で質問した「戦略を県の政策内でどのように位置付けるのか」、「県の全ての政策分野へ同戦略を浸透させることを明記してほしいこと」、「全県庁職員を対象に生物多様性保全についての研修を実施すること」、「同戦略の重点プロジェクトの中に霞ヶ浦の水位操作や逆水門管理のあり方を盛り込むこと」、「霞ヶ浦環境科学センターではなぜ霞ヶ浦の水位操作や逆水門管理について調査や研究を行わないのか」などは、全く回答いただけていません。

さらに、問題があります

今回の集いは、広く県民や市民団体から意見を聞くといいながらも、実際には委員長の一方的な講演が開催時間の大半を占め、二時間予定の内の一時間半は委員長の講演と休憩時間で費やされ、県民が意見を述べたり質問をしたりできる時間は僅かで十分な意見聴取や質疑ができたといえません。

山根委員長は集いの中で、ただ大切だからといった思いだけではなく、きちんとした科学的なデータに基づく評価が必要であると再三述べていましたが、委員長自身がアサザについてデータを確認せずに思い込みで「増えている」と参加者に向かって説明していたことについて、どのようにお考えなのでしょうか。私どもは、このような誤った情報を専門家が公の場で流布すること自体が、絶滅に瀕している生物をさらに危機的な状況に追い込み、絶滅させる手助けをしていることになると思いますが、いかがでしょうか。不十分なあるいは、誤った認識を広めることで生物多様性を損なうお手本を委員長自らが示した形になったのではないのでしょうか。たいへん失礼な

ことを言っているように思われるかもしれませんが、山根先生の委員長としてまた研究者としての肩書を考えれば、その影響を無視できませんので、先生には不愉快な点もあるかと思いますがご容赦ください。

私たちは、このような認識や知識、問題意識が不足した状態で拙速に同戦略の策定を進め、県民の期待に裏切るような形骸化した戦略を策定することに反対します。拙速な策定は、集いの会場でも聞くことができた生物多様性の保全を心から願う多くの県民の思いを無視することではないでしょうか。県民との交流を十分に行わずこのまま同戦略を制定しても、内容は不十分であり、この戦略の趣旨が県民に広く浸透するとは思えません。

私たちは、同戦略の策定を千葉県にない三年間かけて行うこと、今年中に二回目の県民との意見交換を行うことを要望します。また、策定にあたっては、県内で実施されている先進的な取り組みを十分に調査し、それらの成果を同戦略に盛り込むことを求めます。

最後になりますが、先日の集いの中で、私が質問等をした内容について、山根委員長や県担当者からは一切回答も発言もありませんでしたので、再度質問や要望等をさせていただきます。誠意あるご回答をお待ちしています。

1. 同戦略を県政策内にどのように位置付け機能させるのか。
2. 県の全ての政策や事業分野へ同戦略を浸透させる方針を明記すること。
3. 全県庁職員を対象に生物多様性保全についての研修を実施すること。
4. 同戦略の重点プロジェクトの中に霞ヶ浦の水位操作や逆水門管理のあり方を盛り込むこと。
5. 霞ヶ浦環境科学センターではなぜ霞ヶ浦の水位操作や逆水門管理について調査や研究を行わないのか。
6. 生物多様性を活かしたブランド農産物や地酒づくりなど、生物多様性の保全と地域の活性化の一体化を図るような先進的な事例を調査し、そのような動きを促進するための方策を同戦略に盛り込むこと。
7. 1年間で策定するのではなく、十分に県民の意見や取り組みの実態を収集分析し、意見交換を重ねた上で、同戦略の策定を行うこと。
8. 霞ヶ浦環境科学センターで開催された茨城県生物多様性を考える集いの主催者はどこか。

お忙しいところ申し訳ありませんが、以上の7項目について、ご回答いただくようお願いいたします。(なお、この要望書については、アサザ基金のホームページに掲載させていただきます。)

認定 NPO 法人アサザ基金 事務所 〒300-1222 牛久市南 3-4-21

電話 029-871-7166 FAX 029-801-6677

Eメール asaza@jcom.home.ne.jp